

FRONTIER 3

世界の海洋開発市場に進出!

官民一体で海洋産業を戦略的に育成

国土交通省は計り知れない可能性を秘めた海洋分野で2020年までに約2.5兆円規模の新市場創出を目指しています。さらに、巨大な資源開発プロジェクトにも参入できるよう関連産業を支援していきます。

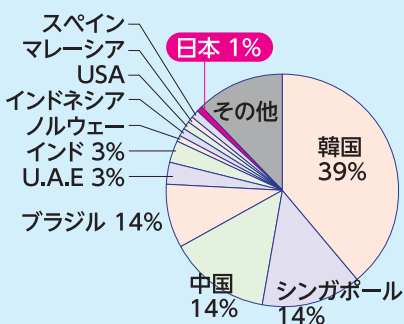
**海洋産業を世界標準に
押しあげ、日本のEENZを
自国の技術で開発可能に**

世界的なエネルギー需要の高まりによって、海底の原油や天然ガスを開発するプロジェクトが世界中の海で活発に行われています。今後も海洋からのエネルギー生産量は増えていくことが見込まれています。

現在、海洋開発に必要な不可欠な海上生産プラントや掘削船など海洋構造物の建造分野では、日本企業が占める生産割合はわずかに1%。韓国(39%)、中国やシンガポール(ともに14%)には遥かに及ばない状況です。このままでは、世界の海洋開発の成長から取り残され、広大な日本のEENZにおける開発を自国の技術でまかなえなくなってしまう。

一方、日本と密接な関係があるブラジルでは、沖合や大水深での石油・

韓国、中国等が海洋構造物のシェアを拡大



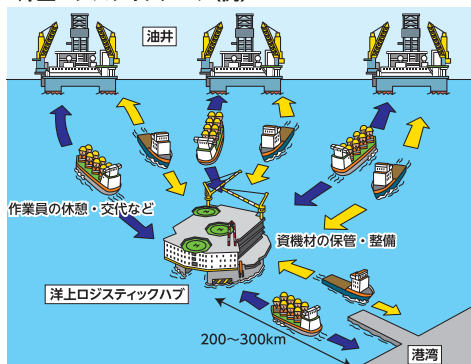
海洋構造物手持ち工事量のシェア (金額ベース, 2019, Clarkson) 総計:13.8兆円

日本の強みを活かせる 新分野への進出支援

～洋上中継施設の実現を目指す～

海洋資源開発は、今後、陸地から遠く離れた沖合で進行していくことが見込まれます。洋上の生産設備に人や物資を効率的に輸送するために必要となる「洋上ロジスティックハブ」の建造実現に向けた技術的課題を解決するために調査を行い、安全評価基準の策定を計画しています。日本企業を持つ、洋上石油備蓄基地などの浮体構造物技術の高さを活かし、世界進出を目指します。

洋上ロジスティックハブ(例)

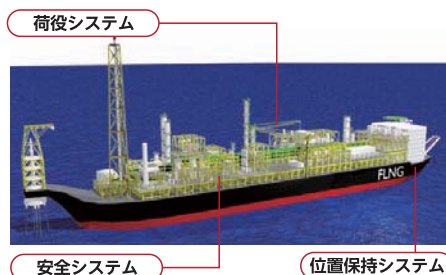


基盤となる技術力の向上

～次世代の技術を開発し、世界へ～

洋上で天然ガスを生産する浮体式の生産設備(FLNG)の導入が本格化すると見込まれます。日本の海事産業が強みを持つ造船技術を活かし、FLNGに活用できる技術を中心に技術開発を支援します。

FLNG(例)



生産基盤の強化

～土台を固め競争力の向上～

FLNGなどの大型海洋構造物を安全で効率的に建造する手法についての調査を実施します。生産基盤を強化することで国際競争力強化を図ります。

天然ガスのプロジェクトが多く計画されています。この海洋開発プロジェクトへの参入を足がかりとして、洋上中継基地や浮体式液化天然ガス生産プラント(FLNG)といった新分野でのシェアを拡大するため、左記に挙げる

3つの施策を平成25年度より実施していきます。これにより、海洋産業における民間企業の国際競争力強化を目指します。

※大水深：水深1000～3000m級の海域。日本ではこの海域での開発は皆無に近い。